

江南市企業誘致等基本方針（改訂版）（案）に関するパブリックコメントの結果について

- (1) 意見の募集期間 令和2年7月 1日（水） から
7月31日（金） まで
- (2) 意見を提出された方 2名
- (3) 意見の件数 4件
- (4) 意見の概要及び市の考え方
(意見の概要につきましては、要約をしています。)

No. 1 【交通アクセスについて】

意見の概要	<p>改訂前の『江南市企業誘致等基本方針』に掲載されている企業アンケートの結果の中では、企業からの意見として「道路が直線でなくわかりにくい」、「ICまで時間がかかる」、「道に迷いやすい」など交通に関するものが多く見られますが（46 ページ）、改訂版では「アクセス等において、優位な立地条件を有している」（58 ページ）と記載されています。</p> <p>実際、ここ数年で道路整備は多少進んだとはいえ、国道 41 号と高速道路へのアクセスが同じ経路のため、朝夕のラッシュ時をはじめ、ICまでの所要時間なども改善されていないと思います。</p> <p>市側と企業側で、認識に違いがあるのではないですか。</p>
市の考え方	<p>改訂版の 31 ページで触れていますように、江南市は名古屋市中心部から 20 km圏内と、名古屋都心部とのアクセスに優れていること、小牧 IC から 5 km圏に位置しており、国道 41 号や国道 22 号といった幹線国道にも近く、国道 155 号が市内を通ることなど、客観的に判断して、交通環境に恵まれた工場立地に有利な条件を備えていると考えます。これを受けまして、58 ページでは『江南市は、名古屋都心部との近接性、IC や幹線国道へのアクセス等において、優位な立地条件を有している。』と記載しております。</p> <p>また、誘致対象区域である安良区域、曾本地区から IC までのアクセスにつきましては、現在、国道 155 号の拡幅（4 車線化）や布袋駅鉄道高架化事業を進めており、これにより、今後、小牧 IC への交通利便性も向上するものと考えます。</p>

No. 2 【安良区域における企業誘致の手法について】

<p>意見の概要</p>	<p>安良区域における企業誘致では、地元からの疑問・質問に十分答えられていないと感じています。改訂版 58 ページの「②企業誘致の手法」中に、『<u>今後は両地区とも地元説明会を継続して開催し、十分な理解を求め、地元住民全体の納得を得て進めるものとする。</u>』と追加していただきたいと思ひます。</p>
<p>市の考え方</p>	<p>安良区域における企業誘致では、事業の開始にあたり、地権者並びに地元住民を対象とした説明会を 2 度開催したほか、職員による地権者への戸別訪問を実施しており、市の考え方や誘致の進め方等については概ねご理解いただけたものと認識しております。また、企業の立地が決定した際には、回覧文書により報告を行うなど、地元との情報共有を図りながら事業を推進してきたところです。</p> <p>なお、地元住民のご理解をいただきながら事業を進めていくことは、企業誘致を推進するうえで重要な要素ですので、58 ページの「③取り組みの方針」に文章を追加し、下記のとおりとすることとします。</p> <p>『安良区域における用地取得にあたっては、進出企業が地権者の用地売却意向を個別に調査し、直接交渉を行う必要があるが、これは企業にとっては負担であり、進出意欲を失わせる要因ともなりうる。そのため、企業と地権者双方の意向調整がスムーズに行えるよう、マッチング支援を継続して行っていく。また、<u>地権者及び地元住民に対して、企業誘致の進捗状況を適宜報告することなどにより、地元の理解を得ながら事業を進めていく。</u></p> <p>(中略)</p> <p>曾本地区においては、現地の状況や開発にあたっての関連法規制等を整理し、開発区画や手法の検討を行うことで、事業化を目指す。<u>併せて、地権者及び地元住民に対する説明会を実施することなどにより、事業に対する合意形成を図っていく。</u>また、新規立地を支援する既存の優遇制度は、安良区域への企業誘致を図る目的で制度設計したものであるため、曾本地区への立地も視野に入れた制度への見直しを検討していく。』</p> <p>※下線部が追加した文章です。</p>

No. 3 【曾本地区へのサービスエリアやスマート IC の設置について】

<p>意見の概要</p>	<p>曾本地区の最南端に高速道路のサービスエリア (SA) やスマート IC の設置はできないでしょうか。</p> <p>交通アクセス、交通渋滞の解消、災害時の拠点、工業団地付近でのトラックの路上駐車やコンビニでの駐車の対策、国道 41 号へ行くための右左折減少による歩行者・自転車の巻き込み事故の減少だけでなく、平日は SA のレストランが立地企業の食堂のような形で活用されれば高速道路 (NEXCO) 側にもメリットがあると思います。また、新東名のように SA にホテルなどを併設しているところも出ています。</p> <p>SA と工業団地が隣接することで、SA から工場見学ができたり直営店を設けるなどすると観光面にもメリットがあり、また、企業側にとっても進出するメリットにつながると思います。</p>
<p>市の考え方</p>	<p>SA 等の運営を行う NEXCO 中日本に、SA やパーキングエリア (PA) の設置間隔について確認いたしましたところ、SA はおよそ 50km ごと、PA はおよそ 15km ごとを目安に設置するとのことでした。現状、曾本地区から最も近い尾張一宮 PA までの距離は約 4km と非常に近接していることから、ご提案の内容については極めて困難であると考えられます。</p>

No. 4 【企業誘致を進めるうえでの他市との差別化について】

<p>意見の概要</p>	<p>現状、どの市町村も様々な方法で企業誘致をしており、近隣でも大口町などでは、どんどん工場や倉庫が建設されているように思われます。</p> <p>補助金などの優遇制度以外にも、企業が進出したいと思うだけの魅力を備えるために、他市との差別化が必須だと思います。</p>
<p>市の考え方</p>	<p>江南市はアクセス面で優れた条件を有するほか、ベッドタウンとして市街地が発達していることから職住一体的な都市環境となっており、企業が従業員を確保するにあたって有利であること、近隣に大手企業が集積していることから取引先との関係構築がしやすいことなどの強みを持っています (55 ページ)。</p> <p>昨年実施した企業ニーズ調査 (39 ページ～) においても、「事業所の新增設を行うための新たな用地が必要」と考えている 77 社のうち、「曾本地区が新たな用地の候補になりうる」と回答した企業が 37 社あり、曾本地区の立地環境は企業のニーズを十分満たしていると考えております。</p> <p>こうした強みを企業に積極的に PR することにより、立地につなげられるよう努めてまいります。</p>